

研究調査報告書

教科名 (音楽)

項目	書名 中学音楽 音楽のおくりもの (発行者略号 教出・番号 17)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>学習指導要領に基づいた3つの柱を設定し、共通事項を窓口に音楽を捉えて各教材が示されている。また、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするための教材や解説が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>我が国や諸外国の音楽文化について理解できるよう、幅広い分野から教材を取り上げ、日本と他国の音楽文化の共通点や相違点を探る教材を取り上げるとともに、体験を重視した学習活動が取り入れられている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○各学年に「指揮をしてみよう」のコーナーを設定し、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○表現したいイメージのヒントとなる吹き出しには、思考力、判断力、表現力につながる質問や助言が示されており、知覚・感受したことを直接書き込める部分もある。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材には、目標とする学習内容が示されており、「Let's Try!」「伝えてみよう」「音のスケッチ」のコーナーでは主体的に学習を進める構成になっている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <p>○共通事項を窓口に捉えた学習の目標が3つの柱に分類されており、教材ごとに共通事項を示し、系統的・発展的に学習する構成になっている。</p> <p><音楽文化について理解を深めるための工夫></p> <p>○「日本の歌みんなの歌」「歌のアルバム」では、既習曲を中学生にふさわしい混成合唱に編曲したもの、同一曲を学年に応じて編曲したもの、世代間や他の国との交流を意識した歌唱教材として選択されている。</p>
資料	<p>○日本や諸外国の音楽文化や舞台に関わる情報、「音楽著作権とインターネット」を掲載し、音楽を多面的な角度から学習する工夫がされている。</p> <p>○教材の特徴が捉えやすくなるように文章や資料の配置が工夫されている。</p>
表記表現	<p>○歌唱の共通教材では、楽譜・縦書きの歌詞・ピアノ伴奏譜・写真が掲載されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」では、掲載ページも示し、発展として「音ってなあに」「音の三要素」が掲載されている。</p>
総括	<p>我が国の伝統的な音楽を鑑賞し体験する資料が充実しておりページ数も多い構成になっている。見開きの写真も充実している。資料集なみの構成となっている。歌唱教材については、新曲も多数取り上げた構成になっている。</p>

研究調査報告書

教科名 (音楽)

項目	書名 中学生の音楽 (発行者略号 教芸・番号 27)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>『音楽学習MAP』において、学習指導要領に示された学習内容と各教材との関係や、歌唱・創作・鑑賞といった分野を横断した関連図が示されている。また、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするための教材や解説が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>我が国や諸外国の音楽文化について理解できるよう、幅広い分野から教材を取り上げ、音楽とその背景や生活とのかわりに関する資料を掲載するとともに、体験を重視した学習活動が取り入れられている。</p>
特色	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○各学年に『確認しよう』を設け、ビンゴゲームやリズムゲームを通して、基礎的・基本的な共通事項である音符や休符や様々な記号について、くり返し確認、学習する構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○ここが分かればGrade up!では曲の構成をパートの役割、共通事項と関連させながら思考・判断する場面を設け、表現方法を工夫する構成になっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材には、学習目標と学習目標に迫る具体的な学習活動の手順、学習の窓口、吹き出しなど、学習に必要な情報が示され主体的に学習を進められる構成になっている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <p>○各学年に学習の目標と学習指導要領に示された共通事項を学習の窓口としてマークで示し、共通事項を学習の支えとしながら、全学年を通して教材が系統的・発展的に組織されている。</p> <p><音楽文化について理解を深めるための工夫></p> <p>○我が国や世界の音楽文化について、音楽の特徴やよさ及び多様性を感じとるために西洋音楽史を日本の歴史から捉えるコーナー、聴くポイント、写真が掲載されている。</p> <p>資料</p> <p>○日本の伝統芸能のコーナーでは、場面の様子写真が一致している。</p> <p>○日本や諸外国の音楽文化や舞台に関わる情報を掲載し、音楽を多面的な角度から学習できるように工夫されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○歌唱の共通教材では、楽譜・縦書きの歌詞・ピアノ伴奏譜・写真が掲載されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当するページに示されており、巻末に『音楽の約束』として発達段階に応じた楽典のまとめが掲載されている。</p>
総括	<p>我が国の伝統的な音楽の扱いとして、1年がソーラン節、2年が長唄「勸進帳」3年が能「羽衣」を取り上げ学年の発達段階を考えられた構成になっている。題材も歌おう→唄おう→謡おうという表記になっていて3年間を見通したものになっている。昔から歌い継がれてきた定番の歌唱教材を大切に扱っている。</p>

研究調査報告書

教科名 (音楽)

項目	書名 中学器楽 音楽のおくりもの (発行者略号 教出・番号 17)
教育基本 法、学校 教育法 の 下 の 中 学 校 学 習 指 導 要 領 の 教 科 の 目 標 と の か わ り	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>各楽器の基礎を身に着ける「演奏の仕方を身に着けよう」とアンサンブルを中心とした「合わせて演奏しよう」を示すとともに、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすために、様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>リコーダーギター、5種類の和楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材も掲載し、我が国や諸外国の様々な音楽にふれるように構成されている。</p>
特色	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真やイラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各楽曲には「演奏のポイント」等、表現を工夫して演奏するための具体的な問いかけやアドバイスが示されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材には、目標とする学習内容、楽器の奏法がわかる写真が示されており、生徒が主体的に学習できる構成になっている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <p>○教材には、共通事項を踏まえた学習課題(ねらい)が示されており、「音のスケッチ」のコーナーでは、創作活動に取り組めるよう教材が配置されている。</p> <p><音楽文化について理解を深めるための工夫></p> <p>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八が取り上げられており、それぞれの楽器の名手から中学生へのメッセージが掲載されている。また、和楽器を扱ったアンサンブルも掲載されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○演奏家の演奏場面の写真とメッセージ、音楽制作現場の写真が掲載されている。巻末には、リコーダーの運指表、いろいろな用語・記号、ギター&キーボード表があり、写真が掲載されている。</p>
	<p>表記 表現</p> <p>○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○楽器の基本的な奏法が写真やイラストを使って説明されている。</p>
総括	<p>○「名曲旋律集」では、名曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○リコーダー、箏、三味線を学習するコーナーには、関連する鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されている。また、Let's try でより発展的な教材(和楽器とリコーダーの合奏など)が取り上げられている。</p>

研究調査報告書

教科名 (音楽)

項目	書名 中学生の器楽 (発行者略号 教芸・番号 27)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>学習指導要領の内容に示された指導事項及び共通事項との関連が分かるように『音楽学習MAP』を示すとともに、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすために、様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>リコーダーとギター、5種類の和楽器と12種類の打楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材を掲載し、アンサンブルを通して我が国や諸外国の様々な音楽に触れるように構成されている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度からの写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力を育成する工夫></p> <p>○活動のヒントとなる「演奏のポイント」「ここがわかればGrade up!」は、思考力、判断力、表現力につながる助言が示されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材には、目標とする学習内容やその方法が吹き出しなどに示されており、生徒が主体的に学習に取り組む構成になっている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <p>○教材に応じて、学習目標、共通事項を「学習の窓口」としてマークで示し、「My Melody」のコーナーでは、創作活動に取り組めるようになっている。</p> <p><音楽文化についての理解を深めるための工夫></p> <p>○箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の特徴や奏法について「音を聴いて確かめよう」「和楽器こぼれ話」などのコラム、楽器の特性や奏法にとどまらず姿勢や礼儀に関する内容も示されている。</p>
資料	○巻頭には、演奏家の写真とメッセージ、リコーダーとギターが活躍する曲、尺八と篠笛の写真が掲載されている。
表記	○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。
表現	○楽器の基本的な奏法が写真やイラストを使って説明されている。
総括	<p>○「名曲スケッチ」では、名曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、尺八、篠笛の音色を聴くために関連した鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞を領域を横断する教材が示されている。また、リコーダーのアンサンブルを中心とした楽譜が充実している。</p>